小学生中学生対象の短歌指導
―― 生活作文を材料に ――

川島　芙美子

はじめに

平成二十七年二月、筆者は「山陰万葉を歩く会」の活動の一環として、島根県江津市内の高角小学校の児童を対象とした短歌指導（短歌教室）を行った。その後同年六月から十一月にかけて、同市内の合計七つの小中学校においても同様の短歌教室（短歌指導）を行った。

江津市内に住む子どもたちに、江津の郷土財産を理解し、それを誇りに思い、お互いの絆を深めて郷土への思いを新たにしてもらいたいとの思いから実施したこの一連の短歌教室は、生活作文を活用することによって充実した活動となった。本稿は、その活動の報告である。

一　短歌教室を開くきっかけとその背景

A　「山陰万葉を歩く会」の設立

「山陰万葉を歩く会」は、平成二十五年九月末に設立された。主旨は、次の通りである。

「奈良時代に成立した万葉集は、古代に生きた日本人の今に変わらぬ思いを伝えた歌集である。この万葉集の中の有名な歌人が、期せずして、この山陰に国司（国の役人）として数年間滞在している。柿本人麻呂（石見）、門部王（出雲）、山上憶良（伯耆）、大伴家持（因幡）は、それぞれにこの山陰の風土と歴史、文化を的確に詠っている。

この島根・鳥取両県にまたがる地域の財産が、誇り得るものであることを見直していくことが必要だと思

う。この地域に住む者が、それを郷土の財産として、子供達にも、また他の地域の方々にも伝えることで、この地域の振興と発展が図られていくものと考える。

B　江津市の歴史文化的背景

江津市には、八つの万葉集の歌碑があり、観光として「歌碑巡り」も行われている。

その背景は、柿本人麻呂がこの石見の地に来て「石見相聞歌」を作ったことによる。その題詞に「柿本朝臣人麻呂、石見の国より妻と別れて、上り来し時の歌」と書かれている。

柿本人麻呂の妻、依羅乙女が、この江津市に住んでいたとされる。全国の万葉集の研究者が「石見相聞歌」の舞台としてのこの江津市に訪れ、この歌の解釈やその背景を探り、研究の一助とされている。「石見相聞歌」に載る地名と対応して考えられる場所が、この江津市には数ヶ所存在する。そこにいき、その場所に座ってみると、「石見相聞歌」が、より身近なものになり、より深い意味を読みとれるとされる。

C　地域活動をなさっているグループの存在

前述の内容に基づいて、江津市には「石見相聞歌」を地域財産と考えて、活動なさっているグループが存在する。それぞれの場所をわかりやすく説明なさるボランティアガイドのグループ、その該当の地を整備し、柿本人麻呂と依羅乙女の銅像を建て、万葉公園となさったグループ、依羅乙女の住んでいたと思われる所に建つ人麻呂神社の管理、あるいは二人のストーリーを紙芝居にして、市内各所に広めていらっしゃるグループなどなど、様々である。これらのグループの活動は、他地域の方々に対しての活動もあるが、場合によっては、小学校中学校に対しての活動も行われている。

D　「石見相聞歌」の朗唱の影響

これらの活動の一環といってもよいであろうが、平成二十四年に万葉公園に、坂本信幸先生（当時の万葉学会会長）の歌碑の除幕式が行われた時のことである。万葉公園を整備なさるグループから、当時の高角小学校の校長先生へ、除幕式の時に、高角小学校の子どもたちに、「石見相聞歌」の朗唱をしてもらえないかとの依頼があった。当時の校長先生は、その熱意を酌まれて、それが実現した。

小学生四十人ばかりが「石見相聞歌」を暗記して朗唱する姿は、その場の列席者に大変大きな感動を与えた。それがきっかけとなり、江津市合併十周年の式典には、高角小学校全員の朗唱がオープニングを飾った。

小学生が暗記することの意味は、簡単にははかれないが、地元の歴史文化を理解するきっかけの一つには、なると思われる。

二　柿本人麻呂をどうとらえるか

A　和歌の成立の意味

和歌は「やまとうた」ともよまれる。意味としては「日本の古来からの歌」という意味とも解釈できる。

万葉集は、日本最古の和歌集と定義づけられている。二十巻からなり、四千五百首余りが載る。そのほとんどが、五七調でできている。いいかえれば、日本人の歌のリズムは、古来より、伝統的に五、七、五、七、七、のリズムが一番精神的にも、叶うリズムということができる。それは、短歌となり、連歌となり、俳句となり、現代も標語や作詞家のリズムとなっている。

日本人は、自分の心を詠うのに、五、七、五、七、七、のリズムが一番的確だととらえているといえる。

B　万葉集の中での柿本人麻呂の位置

万葉集は、奈良時代末期、あるいは、平安初期の成立といわれている。最も古い歌とされるのは、仁徳天皇（五世紀頃の天皇とされる）の皇后とされる、磐姫（いわのひめ）皇后の歌である。しかし、万葉集の古い時代の歌とされるのは、皇室関係者の歌が多く、各個人としてみれば、それぞれに歌の数も少い。

その後、歌の表現も優れ、その数も圧倒的に多く作っているのが、柿本人麻呂である。

万葉集四千五百首の中、約一割四百五十首程が人麻呂の歌とされる。その歌の内容も、歴史的に画期的な出来事とされる壬申の乱の一番の功労者、高市（たけち）皇子の葬送の歌などを作っている。当時の藤原京の中では、少なくとも歌の世界では確固たる地位をもっていたと思われる。宮廷歌人とも称され、今日の和歌の土台を作ったといえる。

C　言霊信仰の現代的な意義

柿本人麻呂が確立したといってもいい、和歌の世界は、一面「言霊」の世界だともいえる。日本語の表現がまだ曖昧で、日本人としての心を、漢字を使ってどう表現するのが一番的確で、どう相手に伝わるかに心をくだかなければならぬ時期に、日本ではじめて優れた和歌表現をなし得た人物である。

それは、言葉には、命（いのち）、霊（たましい）が存在すると信じることで、その言葉に自分の思いを託し、相手のこころに響くように伝えられると考えたからだと思われる。実際に言語学研究の上から、柿本人麻呂の学識は、当時の最高のものであるとされる。その広範な学識と、豊富な経験を駆使し、その漢字の使い方にしても、一字一字に思いを込めて使っているといわれる。

言霊を信じ、言葉は思いが的確にこめられた時、大きな力を発し、すべてを動かすと考えていたのだろう。その前提には、もちろん自分を含めた人間の心への思いやりが込められている。

三　短歌教室を支えたもの

短歌教室の実践の結果として、高角小学校の子どもたちは全員が時間内に短歌を作ることができた。これは、子どもたちにとって筆者の実践が目新しい、珍しいものであったことが功を奏したためかもしれない。

しかし、こうした短歌教室の実践を成立させた最大の要因は、実践を行ったクラスの担任の先生が子どもたちに日頃から生活作文を書かせておられ、丁寧にそれを見て、指導をしてこられた成果の蓄積ではなかったかと筆者は考える。

子どもたちにとって、何かを経験した時、そのすぐ後で、その感動を文章にすることは、意外と簡単なことのようであった。それは、自分の心を見つめ、思いを確認する作業のようでもあった。

この生活作文が短歌教室の作業を容易にし、その結果無理なく短歌を作成させたように思える。

子どもたちの感動の中心をどうとらえるかについては、筆者がその生活作文を読んでみて、その子どもでなければ表現できないことばに注目してみた。

子どもたちの視点から感動の中心の語を考えると、自分が見た事実の中で、心に残っているようす、それは表現としては、様態を表現する、形容詞や副詞、あるいは、擬態語、擬音語などの語に相当すると思われる。または、読んでみて、事実をきりとったように鮮明に表現された部分、あるいは相手の心に思いやった表現などに当ると考える。

そこに、線を引くか、その部分だけを別枠にぬきだしてみるかを作業として行う。

生活作文がすでに書かれており、その上で右のような作業を進めれば、ほぼ短歌のテーマが把握されたと考えることができると思う。

生活作文に加えて、筆者の短歌教室を成立させた大きな要因としては、短歌教室を行った高角小学校においては、短歌に親しむ活動が日頃行われており、子どもたちが小倉百人一首に親しんでいたことが挙げられる。短歌に親しむ活動の一例として、校長先生が子どもたちに出した冬休みの宿題を紹介する。

「第十二回目の宿題です。冬休み中、毎日、三回ずつ声に出して読み続けてください。きっと、毎日たった五分の努力の積み重ねの大きさにびっくりすると思います。

短い休みです。こつこつと続けることが大切です。また、お家で、百人一首カルタにも挑戦してみてください。一月八日から、努力の成果を聞かせてください。」

具体例　小倉百人一首（藤原定家が選んだ優れた百の歌）から

あしびきの　山鳥の尾の　しだり尾の
ながながし夜を　ひとりかも寝む

田子の浦に　うち出でて見れば　白妙の
富士の高嶺に　雪は降りつつ

秋の田の　かりほの庵の　苫をあらみ
わが衣手は　露にぬれつつ

などの和歌が一回に二十首程度出されていた。

四　短歌の作り方

短歌教室における短歌の実作は、次の過程で行った。

① 生活作文の中からキーワードをぬきだす

② 五音、七音に分けて選んだキーワードをもとにまとめる

③ 「五　七　五　七　七」に自分の感動、主旨をまとめあげる

その時に、自分で推敲して、順序を入れ替えたり、新しい語句を考えて入れてみたりする。

④ 作り方に迷ったり、うまく進まなくなった時は、先生や友達に意見を求める

⑤ 最終的には、自分の書いた生活作文の中に、自分の感動を思い起こして、一つの短歌に作り上げる

五　生活作文

高角小学校における実践の中で、子どもたちが実際に作成した生活作文（ⅰ～ⅴ）を以下に紹介する。

（ⅰ）鼓笛引きつぎ式を終えて

今日の引きつぎ式では、すごくきんちょうしました。新メジャーとして、あいさつをしたり、しじを出したりいろいろすごくきんちょうしました。あいさつを教室で練習をする時にもまちがえたりして、あまり自信はありませんでした。でも何もすることが無い時にくり返し心の中で練習をしたりしたのですこしは自信がつきました。そして発表の時は練習の時よりは大きな声で言えたと思うけど、言うスピードが速かったりしたので反省することもありました。校歌やドラムコーチの時には自分ではまちがいないと思ったけど、これからもっと上手にならないとだめだなと思いました。

来年のこの時期にもあいさつをする機会があるので、もっと上手に言えるようにしたいです。

キーワード（あいさつ・心の中・大きな声）

（ⅱ）伝統の引きつぎ

今日、鼓笛引きつぎ式がありました。私はまちがえずにできるか心配で、とてもきん張していました。

六年生の演そう・演技はやっぱりすごくてとてもそろっていました。私達はこんな風にならないといけないんだなあと思いました。

ついに新鼓笛隊の番が来ました。私は心ぞうがドックンドックンしていました。ついに引きつぐんだな、私達が六年生になるんだなと思いました、楽器を引きつぎ、演そう・演技がはじまりました。私は五回以上音をまちがえたので、もっと練習しないといけないなと思いました。

すみれさんの言葉にもあったように、「六年生にはまだまだ届きません」が、毎日毎日練習して、六年生を抜かすぐらい上手になりたいと思いました。

キーワード（六年生・ドックンドックン・五回以上）

（ⅲ）とっておきの一枚

ぼくが一番大切にしているのは、去年の秋ロボットの大会の決勝戦の後、家で二人でとった写真です。

この決勝戦ではあといち小学校のチームと戦って０対１で負けました。負けたのはくやしかったけど、初めてロボットの大会に出てじゅんゆうしょうしたので、とてもその時はうれしかったです。見てください。これがその写真です。二人ともニコニコしながら銀メダルを持っています。

この写真を見ると、あの時やったロボットの大会のおもしろさを思い出します。そしてまた、このような大会に出るという気持ちが高まります。

もうすぐぼくたちも六年生です。また笑って写真をとれるように、練習して上位をとれるように、がんばって練習したいと思います。

キーワード（負けたのはくやしかった・見てください・銀メダル）

（ⅳ）とっておきの一枚

ぼくがいちばん大切にしているのは、野球のときにとった写真です。それは、去年の夏のＪＡカップの島根県大会の一回戦のときの写真です。

この試合は、２対０で負けていました。そして、四回うらに、ランナー二、三塁のチャンスで、ヒットエンドランのサインが出て、初球を打ちかえし一点取りました。一塁ベース上でガッツポーズをしました。そして、その回に四点取り、四対三で勝ちました。試合が終わった後、みんな笑顔でした。試合中にかんとくが

「ナイスバッティン」

と、言ってくれました。

見てください。四回うらに打った写真です。

この写真を見ると、あのときのかんしょくとよろこびがおもいうかびます。この大会は、ゆうしょうできませんでした。だから練習を毎日必死にやっていきたいと思います。

もうすぐ六年生です。キャプテンとして、みんなをしっかりひっぱって、全試合勝つという気持ちで練習したいと思います。

キーワード（初球を打ちかえし・ガッツポーズ・みんな笑顔）

（ⅴ）スケート教室

今日スケート教室がありました。

さいしょは、リンクのよこのほうに、ころばないようにあるく練習などをしてから、リンクに入りました。ぼくはあるくときにすべれるのですべりました。まるくなるときには、すべったらすぐにできました。じゅうじかんはたくさんすべりました。いすもつかって、しんのすけさんとすべったりしてたのしみました。

六年生になったらまたいくので、そのときには、もっとすべれるようになりたいです。

キーワード（まるくなる・いす・しんのすけさん）

短歌の手引きのシート

1　自分の作文の中から短歌に取り入れたい内容をできるだけ五音・七音に近いように選んで線を引く。

2　選んだ言葉を、五音または七音にして左の短歌変換シートに書き出す（なるべくたくさん書き出してみよう）。

短歌変換シート

五音の言葉	七音の言葉

3　変換シートに書き込んだ言葉を組み合わせたり並べ変えたりして、五、七、五、七、七の三十一音にする。並べ方の候補をいくつか書いてみて一番いいなあと思うものを選ぶ。

4　並び替えたものの中で、一番いいものを提出用紙に記入する。

5	7	5	7	7

前述の過程をふんでできあがった子どもたちの短歌を次にあげる

（i）新メジャー　あいさつする時　きんちょうし
　心の中で　くりかえす声

（ii）引きつぎは　ドックンドックン　きんちょうし
　六年生には　まだ届かない

（iii）初めての　ロボット大会　銀メダル　跡市小に
　残念むねん

（iv）エンドラン　初球を打って　走り出す
　みんな笑顔で　準優勝だ

（v）すいすいと　たくさんすべる　スケートで
　教頭先生　押してすべるよ

六　子どもたちの感想

高角小学校の子どもたちが短歌を作り終えた後に記した感想を次に紹介する。

子どもたちの感想は、今までやってきた俳句や標語を作った時とどう違ったか、あるいは短歌の背景や、場合によっては柿本人麻呂についてどう思ったかなどが中心となる。

㋑　この前は短歌の作り方を教えてくださってありがとうございます。おかげですごくいい短歌ができました。あと、歴史の事がよく分かりました。ひとまろは、いろんな短歌を作っていたので、すごいなぁと思いました。

㋺　きのうは、五七五七七を教えてくださって、ありがとうございました。私は五七五なら知っているけど五七五七七はすごく長くてあんまり思いつきませ

んでした。でも私もしっているひとまろの言葉も、ぼくたちの学校のこうかも五七五七七だったので、こんなみぢかにもあるからビックリしました。はいくも、自分が思ったことをかいたらそれなりになっていいのが出来るんだと思いました。

㋩　この前は短歌の作り方を教えてくださって、ありがとうございました。短歌とは、むずかしいけれど、相手に気持ちをしっかりと伝えられる。とても良い物なんだなと改めて知りました。またいつか作ってみたいなと思いました。

㋥　昨日は、ありがとうございました。すごく楽しくできました。作文をかえしてもらったときにむずかしそうだなあと思ったけど、川島先生に分かりやすく教えてもらって、かんたんにできました。最初は時間がかかったけど、二つめからはすらすらできました。ひとまろさんの話をきいて江津のこともしれてうれしかったです。人まろさんが短歌で有名だとは知りませんでした。昨日はありがとうございました。たのしかったです。

㋭　このまえは、短歌を教えてくださってありがとうございました。短歌だけじゃなくてかくれ石の話や、ひとまろとよさみひめの話もしてくださってよくわかりました。短歌は、初めて作ったので、上手にできるかしんぱいだったけど、ちゃんとできたのでよかったです。はいくは、五七五で、短かくて、季語を使わないといけないので、むずかしかったけど、短歌は、五七五七七で、長いし、季語を使わなくていいので、かんたんで楽しんでとりくめました。本当にありがとうございました。

㋬　わたしははじめはむずかしかったけど、川島さんに「この言葉いいね。この言葉いれてみよう。」と言われて簡単につくれるようになりました。とても楽しかったです。また五七五七七を作りたいです。

㋟　五七五とはちがって七七がはいって字数が合わなくて五七五よりむずかしかったような気がします。五七五より字数が多いので伝えやすいところは、五七五七七のいいところだなと思いました。

七　小学校の先生の反応

短歌教室を実施した後、実施した小学校の先生（対象五年生）が筆者に述べられた感想は、以下の通りである。

・子どもがみんな楽しんでいたし、ふだん子どもが感じることそのままの視点でできて、しかも簡単でいい歌になることがわかった。一人が二つは一時間で作っていた。

・前もって生活作文があり、それに線を引いてもらっていたので、それを見た子どもたちは、自分でもいいことばを使ったんだと、まず自信を持つことがで

きた。

・自分の感情や心を認めてもらったのと、五七五七七が意外と身近に使われていることを知り、短歌教室に自然に入っていけたと思う。

・それぞれが違っていながら、自分の視点を生かせていたと思う。

・二時間だったけど、有意義な時間であった。

・いつもと違う機会を生かして、今まで自分でもわからなかった自分の良さを発見してくれて、また、それを皆の前で、自分の良さとして発表できて、お互いを見直すこともできた。今後、宿泊研修の絵の横に短歌を書かせたり、三学期の短歌教室でまた作ったりして生かしてみたいと思う。子どもたちが短歌に対して、全く抵抗感をもたなかったので、これからも楽しく作ってくれると思う。

八　その後の経緯

高角小学校での短歌教室の後、平成二十七年十一月までに、江津市内の五つの小学校、二つの中学校の合計十一クラスについて、短歌教室を実施した。実施内容はすべて同じで、各学校から二時間ずつ頂き、一時間目は、短歌とは、万葉集とは、柿本人麻呂とは、江津市に住んでいたと考えられている石見の妻・依羅娘子とは、江津の古代とは、また今も続く江津の良さ・豊かさとは、などを子どもたちと意見交換しながら進めた。

また、一時間目に必ず行なったことはその学校の校歌を全員で歌ってもらったことである。ほとんどといっていいほど、五音七音で成り立っており、改めて子どもたち達は、日本の歌が短歌のリズムをふまえていることを確認してくれた。その上で、柿本人麻呂の「石見相聞歌」の中の反（かえし）歌「石見のや　高角山の　木の間より　わが振る袖を　妹見つらむか」を私が一度朗唱し、続いて全員で朗唱してもらった。

ここまでの一時間で、子どもたちは意外と短歌とか、人麻呂さんとかに、身近な興味をおぼえてくれた。また、それぞれが故郷江津の良さを思い返して、答えてくれた。江津が古代から良い所で、柿本人麻呂という古代有名なそんな人物が来ていて、そこに「石見の妻」とよばれる女性が居たことも知り、見直してくれていた。

十分ほど休憩した後、二時間目を行った。最初の三十分の間に、前もって私が読み、記しをつけておいた、私の判断で良いと思った子どもたちの作文の中の、五音、七音の言葉をもとに、それぞれの子どもに、短歌を作ってもらった。前もって自分が書いた作文をもとに作るので、再度作文をよみ直し、自分なりに五音を選んだり、七音になるように変えてみたりする子どもも居た。その間に担任の先生にも机間巡視をして頂い

て、子どもの相談にのって、短歌が作りやすいように指導した。どの学校でも、ほぼ全員が自分の短歌を二首以上は作った。

最後の十分間では、どの学校でも自分の作った短歌の中から自分が一番良いと思う短歌を、皆の前で口頭で発表してもらった。他の子どもたちは興味深く、熱心に聞いていた。

三分間ぐらいで、今日の短歌教室の感想を思いつくままに書いてもらった。これも全員書いてくれた。総括的にまとめれば、短歌に対する抵抗が最初はあったようだが、終った後には、自分の気持ちを的確に五七五七七に表現できた達成感を感じているようだった。

以下に、平成二十七年の七月以降に実施した小学校・中学校の短歌教室の結果として、子どもたちが実作した短歌や、材料となった生活作文、並びに感想を記す。

九　小学校

B小学校【短歌】

●やぐら作り　ぼくのズボンに　よじのぼる
　足長バチを　パーンとはらう

●追いかけ坂　丘越え谷越え　丸太越え
　みんなの応援　上から聞こえる

●楽しかった　男子みんなで　かくれんぼ
　暗闇の中　みんなはどこだ

●どんぐりの森　いい4本の木を　見つけたよ
　ハンモックつけ　いい風通し

●楽しかった　ターザンロープ　のってみると
　木がミシミシと　とてもこわいよ

●ユニバーサル　門を開けたら人の波
　のみ込まれちゃって　泣いちゃった

●一本うち　キャッチボールに　バッティング
　たくさんやって　ぼろがちしたい

●本結び　男子二人で　がんばって
　ようやくできた　すてきなやぐら

●包丁で　野菜をむいて　指切れて
　だけどおいしい　カレーライス

●さあとるよ　みんなそろって　ハイチーズ
　思いで残る　この一枚

●精一杯　がんばる弟　入学式　私も少し
　緊張したよ

●床板の　あみ方聞いて　木もれ日の　下に仲良く
　作ったよ

●全力で　走って決勝　初めてだ　五位だったけど
　うれしかったな

●でられない　バレーの試合　頑張った　応援大切
　だから勝ったんだ

●じゃがいもの　皮をむくのは　むずかしい
　実も切っちゃって　でこぼこだ

●午後からの　自分の出番　早く来い

それまで応援　声枯れるまで
●ドキドキした　いつも以上の　緊張感
　頑張ったけど　6位だった
●やぐら作り　むずかしかった　首じめも
　何度もやれば　楽しくなった
●大声で　よく返事をする　一年生　入学式で
　よく出るなあ
●声出して　全力出して　プレイする　県大会で
　ボールをつなぐ
●解体で　まとめて運び　くたくたに
　建てる時より　大分重い
●みんなで　心をこめて　カレー作り
　おかわりしたい　なくなっていた
●すげえでけ～　ターザンロープ　遊びすぎ
　高い木があり　ライダーキック
●分かれ道　ゴールをするか　分からない
　おろち迷路は　むずかしかった
●やぐら作り　丸太を運ぶ　重かった
　みんないっしょに　手助けをする
●片付けは　砂場でごしごし　こすったよ
　疲れたけど　またしてみたい

C小学校【作文】

□音楽会のこと

今日、音楽会がありました。

一年生のときは、すごいどきどきしてたけど、二年生はきんちょうしませんでした。

ぼくがまちがえたところは、もうちょっと大声をだすことだったけどむりでした。

またきかいがあればやりたいと思いました。

□ＰＴＡバレーのこと

今日、ＰＴＡバレーがありました。ぼくらのところは、三いでした。こんどつのみやのときは、一いをとりたいです。おとうさんとおかあさんはがんばってやっていました。教頭先生のアタックがすごかったです。

□楽しかった修学旅行

五月二十八日、二十九日の二日間で楽しい修学旅行がありました。

まず、一日目は、初めて広島のＮＨＫに行ってアナウンスの体験や３Ｄを見させてもらいました。アナウンスをする時すごく緊張しました。それから、天気予報もやりました。天気予報は、すごく難しかったです。また、ＮＨＫに行きたいと思いました。

それから、原爆ドームへ行った時は、たくさんのレンガが、落ちていたり、写真とは、違う風景になっていてビックリしました。

二日目は、楽しい紅葉饅頭の体験をしました。わたしは、初めて、紅葉饅頭を作りました。上手に作れてよかったです。その後に、厳島神社に行きました。それから、水族館に行きました。アシカが、すごくかわ

いかったです。
　私は、初めて修学旅行に行って、この二日間とてもいい思い出になってよかったです。一人だからこそ、楽しい修学旅行になって、よかったです。

□運動会がありました

　九月二十日に地区民運動会がありました。運動会は、今年が最後だったので、一番の思い出になるように楽しくやりました。今年は、卒業生も参加してくださったので、とても嬉しかったです。私は、赤組で、リレーには、勝ちたかったけど、勝てなかったので、とても悔しかったです。でも、綱引きと玉いれは、勝てたので、よかったです。
　鼓笛でも練習の時よりも上手にできてよかったです。リズムをくずさないようにすることが、できてよかったです。
　最後の運動会は、とても楽しく一番の思い出になったので良かったです。

□米づくり

　ぼくたちの学校では、毎年学校田で地いきの方に協力していただきながら米作りをしています。
　初めて田植えをした時は、田んぼの中が気持ちよかったけど、足を取られてこけそうになりました。まっすぐにいねを植えるのがむずかしいなあと思いました。
　田植えの時は、秋の豊作を願って地いきの方と一しょに花田植えをします。花田植えでは、早乙女さんがリズムに合わせて田植えを行い、そのまわりで田植えばやしをうたと笛や太鼓で演奏します。伝統行事です。
　ぼくたちは、練習した田植えばやしを音楽会でもひろうします。ぼくは、頭取の役でうたを歌いました。田植えのことを思い出しながら一生けん命歌いました。
　いねかりは、いねをかるたびに虫がたくさんとんでくるし、いねをたばにしたらとても重いので大変です。でもいねをたばにした時に使ういねなわ作りは、楽しかったです。毎年地いきの方が教えに来てくださっているので、今年はとても上手にはやく作れるようになっていました。地いきの方が、
「上手だね。」
と言ってくださったので、とてもうれしかったです。
　自分たちで一生けん命育てた新米の味は最高です。「新米を食べる会」では、地いきの方たちと一しょにおにぎりを食べました。苦労して育てた米なのでとってもおいしかったです。すごくおいしかったので、ぼくは七こも食べました。
　小学校に入学して初めて米作りを体験して、いねが生長する様子がみられることがとてもよかったです。米作りには時間や手間がかかることがよく分かりました。
　米作りをするためには、いねを植える前に田おこしや代かきがあったり、イノシシが入らないようにさくを作ったりと、地いきの方には、たくさんお世話にな

りました。ぼくたちのために一生けん命お手伝いをしてくださって感しゃしています、

米を作るためには、たくさんの時間がかかるし、ていねいにお世話をしないといけないので、一つぶ残さず大事に食べたいと思いました。

伝統行事の花田植えをこれからも続けていけるようにぼくも盛り上げていきたいと思います。

□音楽会のこと

音楽会で、まいくだったことが一ばんうれしかったです。

さいしょは、緊張していたけど、そらの声が聞こえて、きんちょうがなくなりました。

音楽会は、さいごだったから一ばんに聞こえるようにがんばって、れんしゅうをしました。ステージに立つまえにいろいろな友だちとちいきの人と先生に「がんばれ。」という声をきいて、がんばれたのかなあと思いました。おわったら、ほめられてうれしかったです。楽しかったです。

□ＰＴＡバレーのこと

ＰＴＡでバレーがあって、しみん体いくかんにいきました。お母さんたちのバレーを見ておうえんしました。お母さんは、いろんなことをしていてすごいなあと思いました。楽しそうでした。お母さんたちは、３いでした。楽しかったです。

□「自然に親しむ会」が教えてくれたこと

わたしの住んでいる所は、自然がゆたかなところです。学校では、地いきの方々とのいろんな行事があり、わたしが一番楽しくてすきな行事は、「自然に親しむ会」です。

「自然に親しむ会」は、学校の周りを歩きながらいろんな野草をとって、地いきの方とそれを天ぷらにして食べたり、地いきの方が野草を使った料理を作ってくださったのを食べたりします。

野草は、いたどり、あざみ、よもぎ、のびる、わさび、クローバー、クレソン、たらのめ、ぜんまいなどたくさんありました。ここにこんなに食べられる野草があるとは思いませんでした。たらのめは、都会では高級食材だそうです。そんなたらのめもたくさん食べました。外はサクッとしていて、中はみずみずしい野草の味がそのまんま出ていて、とってもおいしかったです。わたしが一番すきな野草は、ゼンマイです。ぐるぶるまいてあるおもしろい野草です。ゼンマイのに物がとてもおいしいです。あのこりこりした食感が大すきです。

自然に親しむ会は、たくさんの野草料理が食べられるだけではありません。地いきの方とのふれあいがとても楽しいです。野草とりでは地いきの野草名人が、「いたどりは、薬になるんだよ。いたいのをとるからいたどりというんだよ。」と教えてくださったり、いろんな話をしながら料理を

食べたりするのが楽しいです。

「自然に親しむ会」は、ここにこんなにすてきな自然がたくさんあることをわたしに教えてくれました。このすてきな自然をいつまでも大切にして楽しみたいと思います。

来年もまた「自然に親しむ会」があるといいなと思います。

【短歌】

●ＰＴＡバレー　お父さんお母さん　がんばった
　教頭先生　アタックすごい

●修学旅行　一人だからこそ　楽しいよ
　この二日間　いい思い出に

●田植えでは　足を取られて　こけそうに
　まっすぐ植える　むずかしいなあ

●田植えばやし　頭取の役で　うたを歌い
　田植えのことを　思い出しながら歌う

●友だちと　ちいきの人と　先生に
　がんばれといわれ　がんばれたのかなあ

●野草とは　いたどりあざみ　よもぎのびる
　たらのめぜんまい　みな食べられる

●外はサクッと　中はみずみず　たらのめは
　味がそのまんま　とってもおいしい

【感想】

・いろんなむかしがわかってよかったです。ひとまろさんがうたったうたもおぼえられてうれしかったです。

・今日は、短歌教室で、いろんなことをまなんで、最後には、自分で短歌が作れてよかったです。たのしい勉強ができてよかったです。

・今日は、とってもいい体けんでした。ぼくは、こんなに短歌とむきあったことはなかったので、ほんとにいい体けんでした。ありがとうございました。

・短歌をはじめてやってとてもおもしろかったです。かいたらかくほどいっぱいかけました。たのしかったです。

・今日、はじめて短歌だったので、きんちょうしたけれど、やってみればとてもかんたんだったので、「あっ、短歌って、こんな風にやればできるんだな～。」とおもいました。またやりたいです。

Ｄ小学校【短歌】

●次に勝つ　親のはげまし　勝ちすすみ　全国大会
　親を喜ばせ

●絵の準備　竜・虎・武士を　描くつもり
　達成感も　大きいし

●素ぶりする　打突反応　ふる速さ　足の動作
　すべて身につく

●奇兵隊　大軍破り　クーデター　倒幕一色
　江戸から明治

●酒ばかり　のんだあかつき　はいけっかく

大業すまし　仲間にたくす
●保育士を　ためしてみないと　分からない
不安だけれど　現実的に
●ゴールとなり　自分を責めた　この負けを
とても悔しく　次の勝利
●運動会　ダンスや歌を　教えるぞ　下級生と
せいこうさせるぞ
●お母さん　福祉介護士　たいへんだ
みんなのめんどう　わたしも見たい
●ぼくの夢　あきらめずやる　なぜならば
人生の一部だ　大切な一歩
●運動会　応援合戦　やるきあり　大きな声で
がんばる姿
●ほうそうで　少しつまづき　ばれたかも
だれもきづかず　良かったな
●2月から　こてきパレード　練習し
くいが残らぬ　うんどうかい
●ぼくの夢　まだ考え中　現実に　いろんなことに
チャレンジだ
●調理士に　なっておいしい　料理つくろう
ひょうばんのいい　店をもちたい
●ぼくの夢　習字で　がんばって　自然ときれいな
字をかきたいな
●私の夢　めざして進む　パティシエだ
ケーキを食べて　笑顔にしたい
●運動会　みんなと協力　がんばった
みんなでとった　準優勝
●プロ野球　体をいかして　レギュラーを
外野で活やく　四番を打ちたい
●ひゃくさい　まではいきてやる　こどもまごの
せいちょうみまもる　にほんみまもる
●きついけど　練習努力　のりこえる　中国大会
優勝するぞ
●ドッヂボール　はやいパス回し　してみたい
がんばるからこそ　家族よろこぶ
●弱いチーム　強いチームに　かったので
大会前に　自信をつけた
●けがはやく　部活がしたい　なおりたい
めいわくかけて　すみません
●石見神楽　ぼくの人生　ぼくの夢
もっと知りたい　神楽社中
●あこがれと　おもう日まで　やりつづけ
やってみたいと　ねがっている
●かっこいい　かんごしさんに　なりたいな
お母さんの夢　私の夢に

【感想】

・季節が変わり寒暖が厳しくなってくる十月一日に短歌教室という教室を開いていただき誠にありがとうございます。この学習でこの町が栄えていた事、柿本人麻呂がこの石見地区の国司だった事などの歴史

まで教えていただき、感謝の言葉しか思いうかびません。そして、作文などを見ていただき短歌のヒントとなる言葉を見つけていただいた事、とても参考になりました。約二時間、短歌の事を、歴史・桜江・石見の事を教えていただきありがとうございました。

・こんにちは。先日は短歌教室にきていただきありがとうございました。柿本人麻呂さんのことについて教えてもらったり、一緒に短歌を作ったり、とてもいい経験になりました。ここの地区の由来で一個一個に物語があってとてもおもしろかったです。自分でオリジナルの詩をつくる時どんな言葉を使ったらいいのかとても迷いました。でもうまくつくれたのでとてもうれしかったです。本当にありがとうございました。

・秋の香りがただよう中、先日は本当にありがとうございました。五七五七七の短歌を教えていただきありがとうございました。おかげ様で自分らしい短歌を作ることができました。ちなみに川島さんはきぶねという神楽が好きといっていましたが、ぼくは五条橋という神楽が好きです。また出あえたら短歌をおしえてください。

・先日は短歌教室を開いていただきありがとうございました。ぼくはあまり短歌などを作ることがないのでいい経験になったと思います。最初の川島先生の話しはとても面白くて聞き入ってしまいました。柿本人麻呂さんの事も最初はあまり分からなかったけど、川島先生の話しをきいて柿本人麻呂さんの事をもっと知りたいと思いました。短歌作りも川島先生や佐貫先生が分かりやすく教えていただきとてもいい歌ができました。ありがとうございました。

E小学校【短歌】

●たまねぎを　切っているとき　つらかった
　少しの間　目がひりひりした

●親子二人　三脚リレー　息ぴったり
　やっていたから　すごかったよ

●カーブのとこ　こけてけがして　しまったので
　三番だった　少しくやしい

●二人三きゃく　母と息が　合っていて
　速く走れた　自分もおどろく

●応援で　優勝できた　他チームを　応援してたと
　お母さんほめる

●楽しみの　全校リレー　青組と　接戦になり
　黄組が勝った

●二人三きゃく　息合わせて　ミスをせず
　うまく走れた　バトン回せた

●努力した　役員などでも　競技でも
　いそがしかったが　大満足

●何かかゆい　ブトが太ももに　付いていて
　ビンタではらい　ひと安心

●お父さん　走りが速い　二人三きゃく
牛にひきずられ　ぼくこけかける
●応援を　しすぎてのどが　いたくなり
アクエリアスが　すごいチクチク
●予行では　勝てなかったが　本番で　力を全部
出しきり勝てた
●リレーでは　力を合わせ　一位とる
どんなことでも　乗りこえられる
●低学年が　自分の場所を　わすれてね
優しく声かけ　教えてあげた
●お父さん　二人三きゃく　すごいねと
みんなが言うよ　うれしいな
●応えんを　するよと言ってる　お母さん
安心したから　がんばれたよ

F小学校【短歌】

●セカンドは　ボールがいっぱい　とんできて
頭をいっぱい　つかうポジション
●たくさんの　ともだちみんなに　かんしゃしたい
ずっと友達　みんな大好き
●三才まで　けがや病気を　した私　今は元気で
六人家族
●かっこいい　デザイナーに　なりたいな
おばあちゃんは　しぶいというよ
●祭だけで　頭がいっぱい　友だちも
祭のことだけ　話していたよ
●死にそうな　朝のおつとめ　ずっとせいざ
長いおきょう　足が痛い
●最初は　高くてこわかった　馬にえさ
やったりすると　楽しくなった
●海に行き　泳ぐ速さを　きそったり
いかの子どもの　むれを見ました
●飛びこめる　いっぱいいっぱい　飛びこんだ
お父さんより　上手になった
●あげたての　てんぷらを食べ　ジューシーだ
とてもおいしい　今までにない
●来年は　最上級生　ハンドボール
みんなをまとめ　キャプテンになる
●夏休み　東京さい玉　ディズニーシー
ディズニーランド　行きました
●初サイン　あくしゅも出来て　うれしいな
あかり選手が　とても楽しみ
●生きている　意味がわかれば　広島の
気持ちも分かる　はずだと思う
●おかし会　とてもにぎやか　おもしろい
みんな笑って　さいこうな日だ
●勉強の　やるきがでるのは　ゲーム機なし
勉強さくさく　とてもたすかる
●松江城　ドキドキしたよ　初めてで
カメがいっぱい　人がいっぱい

●夜行バスで　あべのはるかす　外のまど
清掃員に　とてもびくびく
●シュノーケリング　黒松の海　きれいだな
たいいかのむれで　じっ感したよ
●朝早く　見守ってくれた　地区の方
調子にのって　いけないことしたよ
●プールの水　海水なので　目がいたい
シャワーであらって　おもしろかった
●島根県に　転入したよ　いそがしい　友達できて
いっぱいあそぶ

十　中学校

G中学校・二年一組【短歌】

●せまい江津　ぎゅっとぎょうしゅく　文化や歴史
石州瓦に　人麻呂・依羅
●江津好き　僕にとっては　あたりまえ
川で遊んで　虫を捕らえる
●深海に　住んでる魚　つかまえて
持ってくるのは　大変だろうな
●姫路城　庭や天守　見てまわり　興味がわいた
歴史や造り
●江津には　たくさん自然が　あるからだ
空気がきれい　人も優しい
●たくさんの　ゾンビがいて　こわかった
おいかけられて　なきそうだった
●ヨリタ歯科　かんじゃさんのこと　考えて
一つ一つに　くふうがたくさん
●ぼくの母校　全校たったの　十二人
人はいないが　とても仲良し
●友達と　今まで以上に　なかよしに
なれてよかった　修学旅行
●万華鏡　中をのぞいて　色きれい　花に見えたり
宇宙に見えたり
●京都に　行ったことが　ないからね
とてもかんげき　たくさんあった
●自主研修　あまりしゃべった　ことのない
子ともすごく　仲良くなれた
●あいさつを　返してくれる　人がいる
静かで豊かで　すごくいいとこ
●地主神社　有名なのは　縁結び　大吉が出た
何が起こるか
●建物は　造らず壊さず　そのままで
そして増やそう　笑顔と自然
●どうしても　ハリポタエリアに　行きたくて
ダッシュで券を　取りに行った
●ＵＳＪ　先におみやげ　買いました
こずかい半分　いいのを買った
●ありがとう　お礼がしたい　わたしから
そだててくれた　ふるさと江津

●家族だと　乗るまでの時間　無言だけど
友達ならば　会話がはずむ
●良いところ　今まで分かって　いなかった
今の時間を　大事に過ごそう
●江の川　釣りをしてると　おちつくよ
糸たらしてる　だけで楽しい
●ふるさとは　大切にしたい　この自然
のこすためには　どうすればいい
●遠足で　星高山に　よく行った　きれいな緑
空気がおいしい
●夜に見た　ライオンキング　感動した
すごい迫力　びっくりした
●清水寺　平安神宮　京扇子　絵付け体験
自主研修
●ドキドキし　とてもワクワク　歩き方
立ち方変える　ライオンキング

G中学校・二年二組【短歌】

●USJ　友達との仲　深まって　夢の中でも
ずっとキラキラ
●青い空　まっ白い雲が　浮かんでる
きれいな空気　いっぱい吸おう！
●姫路城　とても白くて　高かった　昔の人は
これを登った？
●姫路城　清水寺に　金閣寺　実際見ると
違う迫力
●姫路城　僕の興味を　ひいていく　一つ一つの
城の造りが
●姫路城　遠くから見ると　小さいが
近くで見ると　さらに大きい
●地図を見て　一番見たい　城の井戸
ちゃんとした井戸　しっかり見たよ
●スパイダーマン　3Dメガネを　して乗った
落ちるシーンは　すごくゾクゾク
●修学旅行　楽しめるように　打ち合わせ
実行委員も　一つの思い出
●城作る　人の工夫や　企業訪問　人との関わり
しっかり学べた
●修学旅行　いろんな人と　かかわって
人の知らなかった　面を知れた
●映画村　おばけ屋敷や　江戸の町　いいお土産が
たくさん買えた
●江の川　中国地方で　最大最長　祭りもあるし
花火も上がる
●見にいった　城跡だけの　松山城　地形を活用
敵との戦い
●USJ　三つのったぞ　アトラクション
たのしかった　修学旅行
●美しい　江津のまちに　雨が降る　私のふるさと
より鮮やかに

●江の川　たくさん生き物　住んでるよ
自然の多い　星高山
●京都の町　協力をして　たどりつく　仲が深まる
自主研修
●みんなから　愛されている　江の川　大きく長く
魚たくさん
●江津は　一番すごい　あいさつを
気軽にかえして　くれるところ
●ＵＳＪ　ジェットコースター　乗れたけど
少し残念　お土産買えず
●だれよりも　思い入れある　修学旅行
あっというまに　終わってしまった
●恵未さんが　ピンクを中心に　えがいた絵
本当にキレイで　大切にしたい
●船釣りを　いつか親父と　やりたいな
イカなど釣って　自慢してやりたい
●タイヒラメ　いつか一人で　釣ってみたい
ついでにイカも　釣ってやりたい
●姫路城　思っていたより　白く大きく
つくりから分かる　建てた目的
●星高山　ひとまろさんの　像があり
ボタンを押すと　短歌流れる
●江の川　アジがたくさん　ときどきチヌ
川のおかげで　工業もさかん

【感想】
・最初難しかったけど、教えてもらってうまく書けたと思いました。できた短歌がいい言葉に思えてきました。作文を書いて、それが短歌になるなんてすごいと思いました。
・今日の短歌づくりは、最初に線が引いてあったのでけっこうかんたんにつくれました。短歌はけっこう長いので気持ちを伝えやすいなと思いました。もしこれから短歌をつくる機会があれば今日習ったことを生かしたいと思いました。
・自分の思った事の形を変えて表現できたので楽しかった。言葉が五・七・五・七・七に入ってしっかりした短歌になるように作るのが楽しかった。文字の並べ方によって聞こえ方が違うのですごいと思った。
・私は短歌は昔の人が歌うものとしか思ってなかったけど、この短歌教室をうけてみて短歌ってとてもおもしろいなと思いました。これからは生活の中で短歌をさがしてみようと思いました。
・私は百人一首が好きなので短歌がつくれてよかったです。初めて書いたのでとてもドキドキしましたがとても楽しく作れました。めったに短歌にふれることがないので、これからは百人一首以外の短歌にもふれてみたいと思いました。短歌はまじめなものだと思っていたけど、片思いなどおもしろいものもあるんだなと思いました。ありがとうございました。

・うたはうったえる。短歌は難しそうなイメージが強くて「私にはできない。」と思っていました。けど、意外と作ることができて「楽しいな。私にもできるのか！」とびっくりでした。これから、何か一つ思い出ができたら、その自分の思いを短歌にしてみようかな～？と思いました。　あと、自分の名前を大事にしたいと思いました。由来とかもお母さんに聞いてみようかなって思いました。

・はじめてちゃんとした授業でやってとても楽しかったしおもしろかったです。作文を五音と七音に分けて、そこから組み合わせを考えて作っていくのが楽しかったです。人まろさんがよさみ姫さんと別れるのは悲しかっただろうなと思いました。クイズで上の句から下の句を考えて選ぶのがおもしろかったです。片思いとか失恋とかいろいろあってせつないなと思いました。本当に楽しかったです。

G中学校・二年三組【短歌】

●いっしょうけんめい　子供たちが　歌っている
　最後の幕閉め　たくさんの拍手

●観客に　感動あたえる　すごいなぁ　将来は人を
　笑顔にさせたい

●今までは　気づかなかった　友達の
　良いところ見つけ　絆を深め

●夜遅く　電気を消しても　明るいが
　きれいな山が　なかった都会

●四季劇場　響くセリフは　動物の
　ライオンキングで　プロを見た

●ジョーズが　リアルで楽しい　ＵＳＪ
　すごい迫力　満喫できた

●人々に　見守られながら　生きてきた
　恩返すため　行事に参加

●万葉集　たくさんの詩を　出す人麻呂
　偉大な詩人の　ゆかりの江津

●ふるさとの　江津の良さを　広めたい
　僕たちの町　僕たちの親

●私の家　周りは植物　裏は海　いごこち爽やか
　おちつける場所

●緑があり　今はクワガタ　かっていて
　さなぎになった　何故か楽しい

●お正月　日の出を見てて　おもいだす
　あの日の自分　ちっぽけだったな

●京都での　歴史あふれる　町なみは
　伝えていこう　次の世代へ

●つらかった　夜になっても　星みれず
　江津に帰ると　たくさんみれた

●見つけたね　引込み線が　いっていた
　ちゃんとあったと　この江津市に

●星高の　山から見おろす　江津の町
　人麻呂さんに　深くかかわる

●江津はね　自然がゆたかで　住みたい町
　島根の三位に　輝いた町
●ミュージカル　広かったのに　声ひびき
　歌もきれいで　すばらしかった
●売ってある　八ツ橋よりも　自分から
　作ったほうが　おいしかった
●大迫力　ライオンキング　感動し　みんなは満足
　笑顔が広がる
●姫路城　高くて怖い　でもきれい　攻撃防ぐ
　すごいつくりだ
●姫路城　近くでみると　大きな城　外の景色は
　すごくきれいだ

【感想】

・作文で使った言葉を同じように短歌で使ったら、少し違う意味になったりしてすごくおもしろかったです。また、短歌の中の言葉をならべかえるだけでも少し違う雰囲気になっておもしろかったです。またできたらいいです。

・私は「最初は短歌を作るのなんか簡単でしょ。」と思っていました。でも実際に作ってみたけどすっごく難しかったです。びっくりしました。こんなに難しいなんか思っていませんでした。でも短歌を完成するとすっきりして、「作ってよかった。」と思いました。

・校歌が七音・五音でなっててビックリしました。初めて気付きました。短歌を作るのは少し難しかったです。短歌にも一つ一つ思いがあることも改めて分かりました。楽しかったです。

H中学校・一年【短歌】

●初めての　江の川祭り　友達と　約束したのに
　見つからない
●片江の海　大きなカニが　大にぎわい
　近くで見れた　デッカイ花火
●二個買って　フライドポテト　兄と分け
　二人で食べた　夏の思い出
●二人の友　一緒に海に　三回も　森でも遊んで
　最後に花火
●夏休み　満喫したけど　地獄だな　宿題という鬼
　親の鬼顔
●はぐれたよ　いろんな人に　きいたけど
　花火の場所で　あえたから「ホッ」
●バーベキュー　あゆの塩やき　おいしくて
　たくさん笑う　私と家族
●友達と　行くと楽しい　江の川祭り
　花火もとても　きれいに見えて
●お父さん　砂に埋めたり　もぐったり
　ぼくのわがまま　きいてくれた
●戦争とは　人が人とは見ない　最低だ
　原爆ドームが　教えてくれる

●夏休み　遊んでばかり　やる気出ず
二人の自分で　体動かず
●おにぎりくん　みんなの反応　不安だった
いいじゃんしおん　似合ってるとね
●元気いい　おばあちゃんが　声かけた
だるいオレも　元気になる
●六年生　怒られながら　熱心に　がんばりました
野球じんせい
●宿題が　ギリギリで終わり　反省し
来年こそはと　覚悟を決めた
●かわいいな　猫が座って　顔を見て
ニャーニャーと　目の前にいた
●宿題を　七月中に　終わらすぞ！
言うときウキウキ　結局クルシミ・・・
●いとこ来る　線香花火で　真剣勝負　○勝二敗
燃えつきた私
●今もまだ　心の中に　残ってる　迫力ある音
散りゆく花火
●誕生日　ウサイン・ボルトと　同じ日だ
びっくりしたけど　うれしくないな
●今年初　海がきれいで　おどろいた
楽しかったよ　友と行く海

H中学校・二年【短歌】

●新人戦　悔しさをバネに　多く勝つ　練習頑張り
楽しいテニス
●海の上　みんなが集まり　ひそひそと　恋愛話
夏の思い出
●父さんと　庭木をきると　風光り
どんどん入って　とても涼しい
●遠くの　方で雷　鳴り始め　海から上がる
少し悔しい
●自転車で　帰る道のり　行きよりも　海の疲れで
長く感じる
●大丈夫　自信を持って　堂々と　顧問の言葉を
胸に抱き
●県大会　とても悔しかった　あと5点
金賞目指して　がんばるぞ
●練習で　踊れるようになって　うれしかった
本番では　手足バラバラ
●ジャンプする　岩場だった　こわかった
どんどんやって　こわくなくなる
●大好きな　スパイクを決め　点稼ぐ　その瞬間を
越えるもの無し
●表彰式　ドックンドックン　心臓が
頑張ったこそ　感じる気持ち
●舞台裏　すごい緊張　知り合いの
頑張っての声　和らぐ緊張
●隠し絵や　じゃんけんサッカー　イベントで
江津のみんなと　仲良くなった

●赤ちゃんが　元気な声を　響かせて
　これから僕も　小さいおじさん
●コンクール　ゴールド金賞　ねらい行き
　おしくも銀賞　あともう少し

H中学校・三年【短歌】

●夏休み　宿題終わらん　遊びすぎ　また来年も
　徹夜だろうな
●議論する　原爆投下　特攻隊　戦争終結
　戦後七十年
●県総体　最後の大会　緊張し　結果はゼロ勝
　でも悔い残らず
●本当に　あっという間に　三年生
　あともうすこしで　高校生
●闇の中　輝く大輪　生で見る　写真に撮らず
　しっかりと見る
●現役が　終わればすぐに　ふとりだす
　楽しい日々が　デブ一直線
●虫大量　家の中では　虫退治　窓を閉めても
　入ってくる
●ひざの上　宿題中が　あたたかい
　カイロ代わりに　寝る「丸」と「角」
●マットでは　倒立だけで　せいいっぱい
　球技になると　マジになるオレ
●二度寝して　昼寝しばしば　自堕落に
　過ぎ去り消える　夏の休日
●オコエ瑠偉　今年の夏は　大暴れ　思わず僕は
　うおーすげぇー
●めんどくさい　夜卓のりきって　市総体
　ダブルス一位　きめたぞ俺は
●海行って　たくさん遊んで　バタンキュー
　勉強時間　無くなっちゃった
●命には　上下はないと　言った手で
　なぜそのペットを　捨てられる
●祭り終え　楽しかった　時間から
　さみしい時間に　変化してゆく
●オーキャンで　ゲーム機いちから　作ったぞ
　楽しかったな　ゲーム以上に
●ありがとう　思春期だから　言えないが
　家族みんなが　大好きだよ
●祖母の家　心がこもる　手料理で
　お泊まりできて　大満足
●取り戻せ　尖閣竹島　北方領土
　がんばれ安部さん　自衛権行使

十一　まとめ

短歌指導の実践を通して、筆者は今後の課題について以下のように考えている

① 子どもたちの作品の特徴あるいは、その背景、表現面などの分析をもう少し指導をうけながら進めていきたい。

② 今回の短歌教室の進め方の長所・短所の分析、それに基づいた改善を進めていきたい。

③ 楽しく、興味深く作ってくれた子どもたちの作品を発表し、地区の方々にも見ていただき、指導をうけたい。

④ はじめての試みで、あまり準備もせずに実施したこの一連の短歌教室を、改めて前の①から③の問題点をふまえて来年度も研究を続けていきたい。

平成二十七年の二月から始まり、十一月に終了した短歌教室で、小学校・中学校の二百五十名ほどの子どもたちに接して、私自身は様々な勉強をすることができた。大きな成果として感じられたことは、ほとんどが素直に前向きに取り組んでくれ、気持ちの良い二時間の授業時間を過ごせたことが大きな喜びであり、私自身が大きな勇気をもらったように思う。

あらためて、各学校の校長先生をはじめ、担任の先生、お世話を頂いた先生方、また、江津市教育委員会の方々に心より感謝したいと思う。ありがとうございました。

（短歌教室を実施したのは、渡津・江津東・郷田・桜江・跡市の各小学校、及び江東・江津の両中学校である。）

［追記］ 本稿は、平成二十七年八月一日に行われた「島根大学教育学部国文学会研究発表会」での発表原稿に、大幅な加筆修正を加えたものである。

（山陰万葉を歩く会会長）